

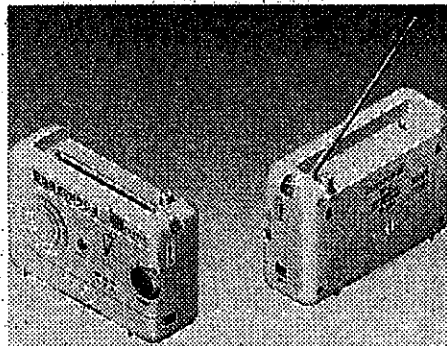
FMラジオで災害情報

FMくらしき 倉敷CATV 緊急告知する専用機

【岡山】エフエムくらしき（岡山県倉敷市、大久保製作社長）と倉敷ケーブルテレビ（同、務台和正社長）はコミュニティFMラジオを利用し

た災害時の緊急告知システムを開発した。来年三月に専用ラジオの販売を始め、全国の市町村、コミュニティFM局に導入を働きかける。

共同開発したのは「緊急告知FMラジオ」。災害発生時に市町村がコミュニティFM局に避難勧告・指示や災害情報などを流し、これを受けて



FM局が緊急放送をする仕組み。

災害時にはラジオの電源が入っていないなくてもFM局からの電波を受信して自動的に電源が入り、緊急連絡を大音量で放送する。ライトも点灯するため聴覚障害者にも告知できる。

一般にコミュニティFM放送の範囲は半径二十キロ程度だが、電波が届

かない地域でもCATV局のケーブルをつなげば受信できる。

専用ラジオ写真IIはURO電子工業（東京・品川）が生産する。価格は一台当たり八千円程度。普及が進んで生産量が拡大すれば五千―六千円に引き下げ可能という。初年度で二万台の販売を目標にする。